

「北関東地区 講演と報告会」

日時：2014年1月11日（土） 14:30 ～ 17:30

場所：日立シビックセンタ交流サロン

日本技術士会原子力・放射線部会、茨城県支部、JAEA技術士会、神峰技術士会の共催で題記の会合が開催された。会合は「講演会」と「報告会」の二部構成であり、参加者は「講演会」が30名、「報告会」が23名であった。以下に概要を報告する。

第I部（講演会）



《講演1》 日立GEニュークリア・エナジー(株)原子力設計部の米谷 豊氏（技術士 機械部門）から「福島第一原子力発電所で活躍する日立ロボティクスのご紹介」の講演があった。

最初に福島第一原子力発電所の現在の状況、廃止措置に向けたロードマップ、燃料デブリ取り出しとそのための研究開発や4号機使用済み燃料プールからの燃料取り出しが説明された。次に、高い放射線環境下での作業員の被ばく低減の観点から、調査および各種作業を遠隔操作で実施するための各種遠隔装置の開発の例として、調査用ロボットシステム、線量調査用ガンマカメラ、作業用遠隔重機、遠隔除染装置等がビデオも使い紹介された。

《講演2》 （独）日本原子力研究開発機構 福島技術本部 福島環境安全センターの武石 稔氏（技術士 原子力・放射線部門）から「福島の実環境回復に向けた原子力機構の取組み」の講演があった。

最初に福島技術本部の紹介と除染に関する国のロードマップと原子力機構の取組みが紹介された。次に走行サーベイ・航空機・無人ヘリ等による環境放射線モニタリング・マッピング、除染技術実証、放射性セシウムの将来予測や移動抑制等の環境動態研究、除去物・災害廃棄物の減容方法など、原子力機構が福島県等において取り組んでいる活動について紹介された。

講演会には福島県からも8名参加され除染に関してなど多くの活発な質疑があった。



第Ⅱ部（報告会）

原子力・放射線部会からは、CPD教材「原子力・放射線の整理と検討のための資料 ～3.11 福島第一原子力発電所事故について考える～」の発行、技術士フォーラム 2013「放射線による被ばくリスクと放射線防護をどう考えたら良いか」の開催協力、部会創立 10 周年に向けた準備等について紹介があった。

茨城県支部からは合格祝賀会、第 2 回年次大会・講演会・交流会、CPDミニ講座、CPD啓発講座（見学会）とともに、霞ヶ浦環境科学センター夏祭りなど多くのイベントに出展したことが紹介された。また次の週に開催する新春講演会・交流会へのお誘いがあった。

JAEA技術士会からは、今年の活動紹介として前回の「北関東地区 見学（那珂研究所）と新年会」等とともに、ふくしま避難者交流会、原子力学会原子力安全分科会のWG活動、ヒマワリハピネスプロジェクトなどのJAEA有志の活動が紹介された。

日立原子力技術士会（91 名）を拡大して日立製作所電力システムグループ全体（153 名）の技術士会として 2013 年度から発足した神峰技術士会からは、発足会（総会）、技術セミナー 2 回の実施、技術士試験関連の報告とともに課題が示された。朗報として、昨年 10 月に IPEA(EMF)国際エンジニアが ASME Sec. III で要求される PE として認められることになったことが報告された。

林 克己 記

